

# JAERA

# NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・第5弾 業界イメージアップのヒントを探る… P1,P2  
 □第9回 業界景況調査の結果について… P3,P4,P5 □各ブロック会議の開催結果・リサイクル技術部会の開催結果… P5  
 □車検証の電子化について… P6,P7 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業9月出荷状況と上期累計/9月新車販売  
 ・使用済自動車発生台数… P8 □鉄スクラップ最新情報… P9 □行事予定・お知らせ/編集後記… P10

vol. **164**

## 第5弾 業界イメージアップのヒントを探る!!

### ～自動車リサイクル士制度の取り組み紹介～

01

「業界のイメージアップ」をテーマとした連載企画の第5弾！今回は当機構の自動車リサイクル士制度の取り組みについて、前々号に引き続き、本制度の企画運営を行うリサイクル技術部会の佐々木部会長にお話をお伺いしました。



【佐々木部会長】

#### ■自動車リサイクル士の資格(以下、自り士)は どんな方が取得されていますか？

経営者から現場責任者、新入社員などベテランから期待の新人まで幅広い層に取得していただいています。また、現場で作業を行う方のみならず事務担当者など現場作業以外の方も受講いただき、特に最近は**20代の若者**や**女性の方**の受講も徐々に増えてきたなと感じています。

#### ■20代の若い方や女性の受講者も増えてきているんですね。

この資格の講習内容は、皆さんご存じの自動車リサイクル法(以下、自り法)を理解するところから始まります。現場の作業者の視点で考えるとこの自り法は遠い言葉のように聞こえますが、実は今行っている作業も自り法で定められた流れに沿って行われています。

自動車を適正に処理までには色々な過程がありますが、実際に現場では一つの作業を任される方がほとんどだと思います。自り士の講習会では「自分の担当外の作業や流れはどうなっているか」や「適正な処理とは何か」など、自り法を理解することで全体流れの中での自分の作業の位置づけを認識することができ、引いては自分の会社やこの業界全体の視点から物事を捉える力や知識も養うことが出来ると考えております。ですので、性別や担当業務に関わらずに多くの方に受講いただいているのだなと思います。また、**新人教育の一環**としてこの講習会に受講いただく方が多いのも若い人が増えた要因ですね。

## 巻頭言

リサイクル機構で仕事をさせて貰うに当たり幸運に思うことは、素晴らしい人間性を持った多くの人達と出会えることにあります。

リサイクル技術部会の佐々木部会長もその一人。リサイクル業界に対する思いは勿論、特に自動車リサイクル士に対する情熱には並々ならぬものがあります。以前も佐々木部会長にはニュースレターに登場して頂きましたが、今号で再びその熱い思いを語って貰いました。

兎にも角にも、自動車リサイクル士を普及させることは業界にとって大きなインセンティブとなり得ます。業界一丸となって推進していきたいものです。

〈広報部会 永田 則男〉

《編集・発行責任者》  
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
 広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》  
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
 〒105-0004  
 東京都港区新橋3丁目2番2号  
 TEL: 03-3519-5181  
 FAX: 03-3597-5171  
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
 H P: http://www.elv.or.jp/

# 第5弾 業界イメージアップのヒントを探る!!

## ～自動車リサイクル士制度の取り組み紹介～

# 01

### ■教育の一環として受講される方もいらっしゃるんですね。

はい。自動車解体を営んでいる事業者は、規模の大きいところから少人数や家族で行っているところなど大小様々です。特に小規模の事業者さんですと一人で多数の業務を担っている人もいて、新人が入社しても実務をこなしながら行うOJT（職場内訓練）は出来ても、この業界の骨組みとなる自り法などの知識を理解することは時間的に非常に難しい状況が多いと思います。この点、自り士の講習会では比較的短時間で要点を理解することが出来ますので、**新人教育のみならず社内研修など“教育”としてご活用いただけます**と思います。



【こんなカードがもらえます】

### ■教育という視点で自り士制度をどう考えますか？

また、我々の仕事は最近よく見かけるSDGsそのものであると日々思っていますが、なかでもこの自り士は4番の「質の高い教育をみんなに」に当てはまるなと考えています。というのは、性別や年齢など関係なく、誰でも受講・取得することが出来るこの自り士制度は、我々の業界で**唯一の資格制度**であるからです。また、受講者側としても自身の能力や知識が“自り士”という形で可視化されますので、「自分の今後のステップアップを考えるようになった」や「仕事へのモチベーションが高まった」などという声もいただいています。更に事業者側もこの自り士を持っていると資格手当を支給しているなどといった事例もあるようです。



### ■なるほど。。この自り士は業界全体で活用いただけそうですね！

そのとおりです。先ほど業界唯一の資格制度と言いましたが、業界唯一であるため業界内での共通の“ものさし”的な資格として、我々自動車リサイクル機構のみならず**自治体の方や関係団体などにも活用いただける**と思っていますので、現在関係各所と活発に意見交換を進めています。併せて、更に受講しやすい講習形態の検討や講習内容の見直しなど、より質の高い資格制度となるようリサイクル技術部会を中心に機構全体を巻き込んで取り組んでいます。

また、一般ユーザーなど業界を知らない方が我々の業界を垣間見たときに、このような資格制度があること自体が**業界への信頼性やイメージアップにも繋がる**なと考えています。最近「日本酒マイスターがいる店」と謳った看板の居酒屋を見かけましたが、「自動車リサイクル士がいる工場」などアピールポイントにしている事業所もあるようです。リサイクル技術部会では、この自り士の知名度が更に高まり、資格者の方がもっと増えれば良いなと想いを込めて日々熱い活動を行っています。（笑）

### ■自り士を持った人が増えると未来が明るいですね

入庫台数が少なくなったなど、今自動車の解体業界は非常に大変な状況に置かれていると感じています。ですが、どんなに技術が進歩しても自動車がなくなる限り、使用済自動車を適正に処理する我々もなくてはならない存在です。この業界の未来を担うのは今現場で汗水たらして働いている皆様だと思います。

私の知る限りでもこの業界に対して大きな夢を持った方が沢山働いています。そのような方々にも是非、**この自り士を活用いただいて、自動車リサイクルに関する知識を習得してもらい、将来の業界をけん引するような人になって欲しい**なと願っています。



## 一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第9回 景況調査報告 2022年7～9月期(概要版)

### 業況判断▲67.4 依然厳しい状況づく

#### 【調査要領】

- ①調査時:2022年9月16日(金)～9月30日(金)
  - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
  - ③調査の方法:FAX・Web の送受信による自計記入を求めた
  - ④回答企業数:465社のうち90社(19.4%)から回答を得た(うち、有効回答数 89)
  - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 33.6人(前回27.1人)  
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 8.1人(前回 8.6人)
- ※DI 値(DI : Diffusion Index) 「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

### (1) 概況（業況判断・売上高・経常利益・資金繰り）

2022年7～9月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期（2021年7～9月比）との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△67.4（前回△36.9）、売上高が△48.3（前回△15.4）、経常利益が△65.2（前回△26.2）、および資金繰りが△28.1（前回△10.0）であった。

図1 前年同期(21年7-9月)比業況判断:DI値△67.4

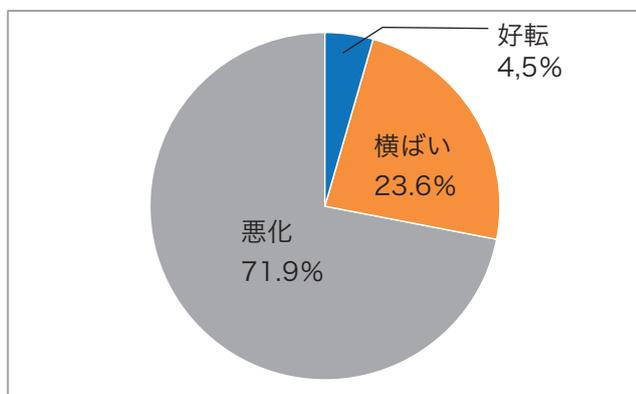


図2 前年同期(21年7-9月)比売上高:DI値△48.3

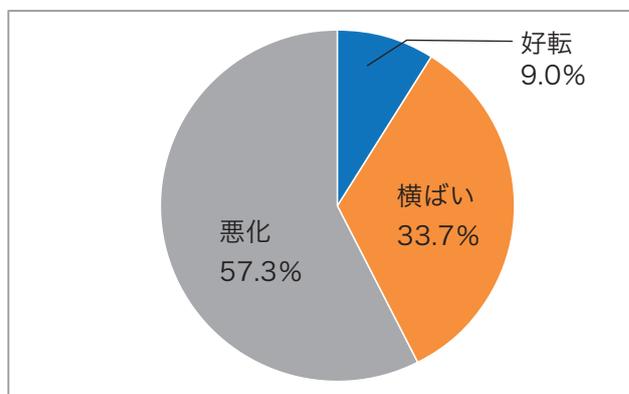


図3 前年同期(21年7-9月)比経常利益:DI値△65.2

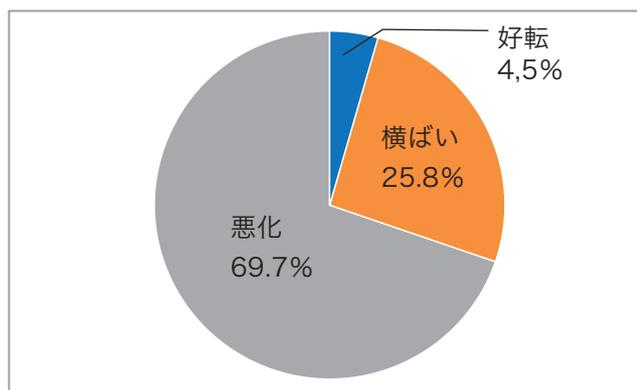
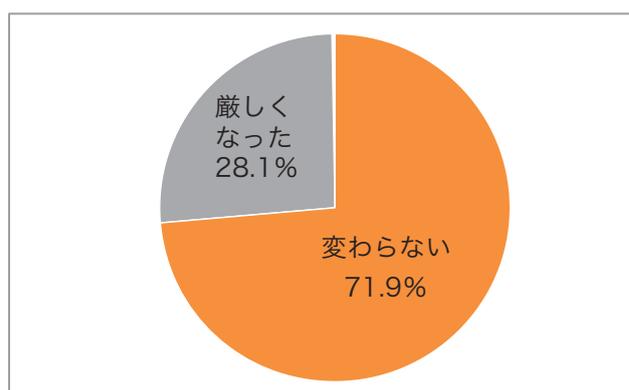


図4 前年同期(21年7-9月)比資金繰り:DI値△28.1



## (2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

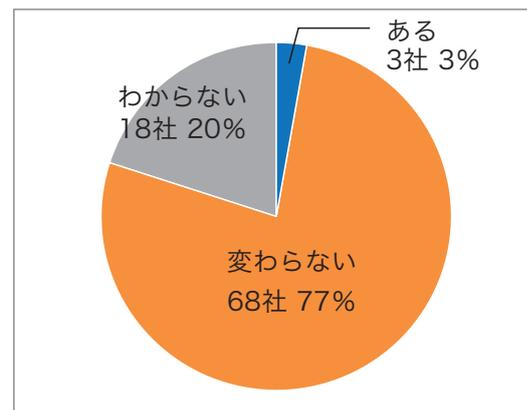
2022年7～9月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が3社・3%（前回10社・8%）であり、「変わらない」が68社・77%（前回104社・80%）であった（図5参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢2社（前回6社）、新たな貸し渋り1社（前回1社）であった（表1参照）。

表1 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

貸付攻勢	2社	新たな貸し渋り	1社
------	----	---------	----

図5 金融機関の姿勢変化

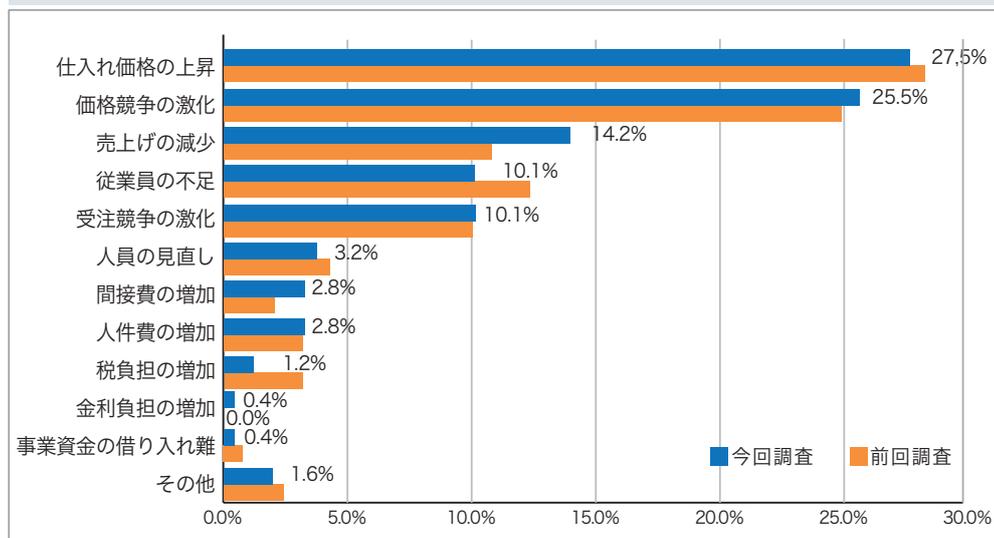


## (3) 経営課題と取り組み等

図6 経営上の課題（上位3つまでの複数回答）

### ①経営課題

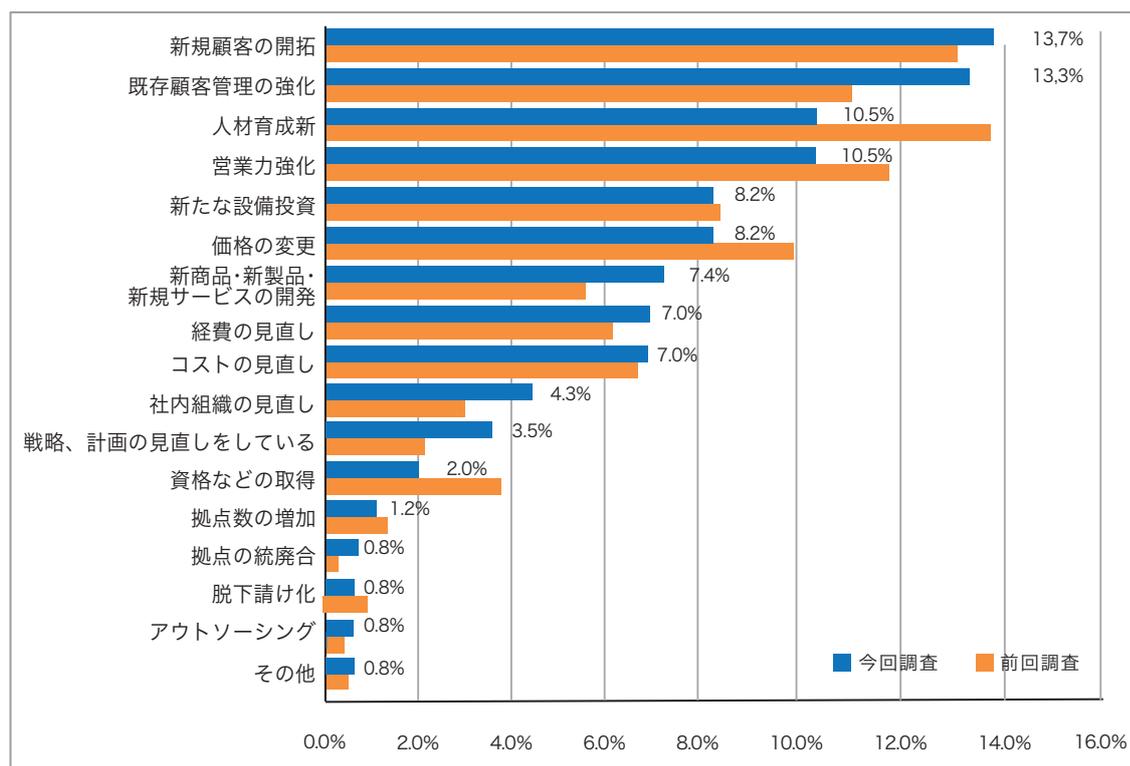
2022年7～9月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇（68社・27.5%）、価格競争の激化（63社・25.5%）、売上げの減少（35社・14.2%）が上位であった（図6参照）。



### ②現在の取り組み

2022年7～9月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、新規顧客の開拓（35社・13.7%）、既存顧客管理の強化（34社・13.3%）、人材育成（27社・10.5%）、営業力強化（27社・10.5%）、であった（図7参照）。

図7 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



### ③お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。※原文のママ掲載

- ・インボイス制度の対応方法がよくわからない。講習等があればうれしい。
- ・外国バイヤーが廃車でも直接高額で購入している。
- ・円安のため対抗するにも限度がある
- ・金融機関からの、借入れが非常に難しい
- ・車両仕入れの高騰がいつまでなのか？
- ・車輛(解体車)をオークションで売買しているため仕入車輛の価格が異常に高くなっている。
- ・品不足で仕入れ価格も高く大変苦労しています

#### ■事務局より

次回2022年10～12月期の調査につきましては、2022年12月後半で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第9回景況調査報告2022年7～9月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20221026-ktikyotyosa9.pdf>

## 各ブロック会議の開催結果

# 04

### 中国・四国ブロック会議 一周圏と連携した会員拡大の取り組み

2022年10月4日(火)に岡山県で開催されました。今年度機構として会員拡大の取り組みに注力するなか、中国・四国ブロックでは、ブロック長や支部長、機構本部で連携を図り、現在会員のいない愛媛県の同業者の方々へアプローチすることができ、結果、機構の取り組みについてご説明の機会を得ました。

従来、会員増強については各地域内での活動に留まっていたましたが、今回は県の垣根を超えて周辺の地域や機構本部で連携した結果、このような活動が実現出来た言わば成功例として本会議内で報告があり、今後も継続して取り組むことになりました。



【会議の様子】

### 関東ブロック会議 一大変な時期だからこそ団結を！

2022年10月14日(金)にWEB開催となった本会議、「仕入減少など、このような大変な時期こそ力を合わせてやっていきたい！」という有原ブロック長の言葉で開会されました。

仕入台数の大幅な減少が続いているという報告が相次ぐなかで、1台当たりの利益を上げる取り組みに注力しているといった報告があり、また、近年増加している大雨や自然災害により発生した被災車輛への対応に関する情報、盗難が発生しているなど多岐に渡る情報交換が活発に行われました。

## リサイクル技術部会の開催結果

### ～2年振りの対面！リサイクル技術部会～

# 05

2022年10月12日(水)に機構事務局にて開催され、対面では2年ぶりの開催となりました。機構の中核事業でもある”自動車リサイクル士制度”について、今年度の講習会の報告と次年度の講習会の開催方針について検討を重ねました。また、自動車再資源化協力機構と自動車リサイクル促進センターの担当者の方も加わり、この制度を業界全体で活用出来るような取り組みなどの意見交換が行われました。

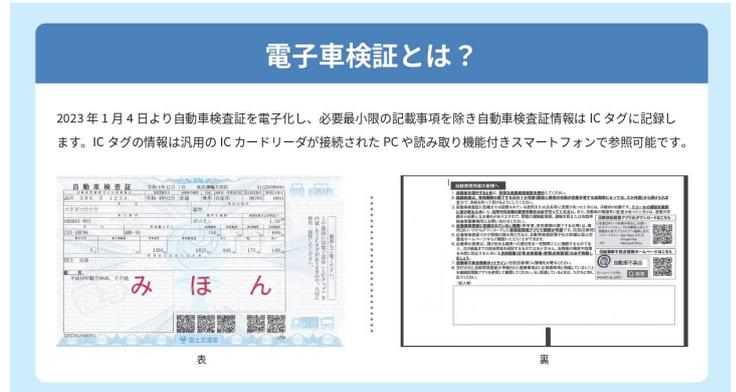
先月号での巻頭言でもご案内した通り、電子車検証に関して現時点で判明している情報を調査しました。国土交通省でも「**電子車検証特設サイト**」が設置されていますのでご参照ください。

▶ <https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/>

### 【来年1月から電子車検証制度がスタート】

普通車は2023年1月から、軽自動車は2024年1月から電子車検証に切り替わります。ですが、電子車検証では以下の情報を目視できません。

- 車検の有効期限
  - 所有者の氏名・住所
  - 使用者の住所
  - 使用の本拠の位置
- ※使用者の氏名は券面に記載されます。



※出典：国土交通省電子車検証特設サイト 車検証電子化告知リーフレット

使用者と所有者が同一の場合、従来の車検証では使用者の氏名欄は「\*\*\*」ですが、電子車検証では氏名が明示されます。

### 【車検の有効期限・所有者情報等を読み取るためには？】

従来の車検証でしたらすぐに目視出来ましたが、今後は以下の<1>～<3>の手順を踏まなくてはなりません。

#### <1> 読み取り用アプリをインストールする

「アプリのインストール方法は準備出来次第特設サイトでご案内します」とのことです。この記事の作成時点(10/26)では、リリース時期は不明です。

#### <2> 車検証の右下に記載されているセキュリティコードをアプリに入力

▶ <https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/business/application/>

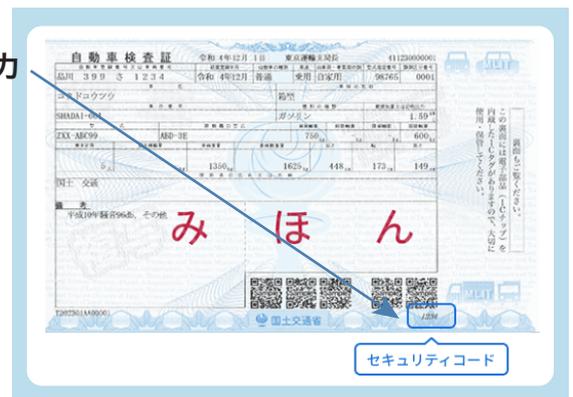
#### <3> ICタグを読み取り

この段階で以下の情報を読み取ることができます。

- 車検の有効期限
- 所有者の氏名・住所
- 使用者の住所
- 使用の本拠の位置

※国土交通省のHPでは以下のように記載されています。

▶ <https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/business/about/>



※出典：国土交通省電子車検証特設サイト

「汎用のICカードリーダーで読み取り可能（読み取り機能付きスマートフォンにも対応）」となっておりますが、スマホのどの機種ならICタグを読み取りできるのかは記載されていないため、各自で調べなくてはなりません。（スマホに読み取り機能がない場合は、別途専用機の購入が必要です。）

なお、経過措置として、制度開始から最低3年間は、車検発行時に「**自動車検査証記録事項**」というこれまでの車検証と同じ**情報が紙面で発行**されます。

## 【今後想定される問題点】～解体事業者視点での問題点～

### □車検証が壊れる？

ダッシュボードの上等、**過度な高温になる場所に長時間放置**することICチップが破損する危険性があります。なお、今までと同様に車両運行時には車検証を携帯する必要があります。

### □電子車検証はFAXできない？

**車検証を曲げてしまうと**IC情報が破損してしまう可能性があります。ですので、一度コピーしてから送信するか、曲げずに送信できるタイプのFAX送信機が必要です。

### □電子車検証は畳んで郵送できない？

ユーザーさんが間違えて**ICタグの部分折り曲げてしまうと**破損してしまう可能性があります。折り曲げて郵送する際はICタグの部分の曲げないように注意してください。

もしユーザーが「自動車検査証記録事項」を紛失してしまった場合以下の問題が発生します。

### □車検証の有効期限がすぐに分からない。

有効期限が残っている場合、重量税や自賠責保険の還付金が発生しますが、車検証を**目視しただけでは確認できません**。

### □所有者がすぐに分からない。

**ディーラー名義なのか本人名義なのかもすぐに判別できません**。引き取った車が「実はローンが残っていた」などのトラブルになる可能性もあります。

## 「自動車検査証の電子化に関する検討会」

▶ [https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_tk6\\_000034.html](https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk6_000034.html)

この「検討会」のページでは以下が記載されています。(要約)

「自動車関連の手続きについては、申請者の負担軽減を図り、オンラインで一括して申請が可能となるワンストップサービス(OSS)を推進し、車検証の電子化に取り組む」

しかし、今回の制度において、申請者の一員である解体事業者にとって、廃車手続きなどの負担軽減が図られてはならず、むしろディーラーや整備事業者の利便性のために、解体事業者は負担増を強いられている印象を受けますので、今後、業界として注視していく必要があります。

2023年1月4日より  
**車検証**が**電子化**されます

電子車検証とは？  
2023年1月4日より自動車検査証を電子化し、必要最小限の記録事項を除き自動車検査証情報はICタグに記録します。ICタグの情報は汎用のICカードリーダーが接続されたPCや読み取り機能付きスマートフォンで参照可能です。

車検証閲覧アプリ  
電子車検証の券面には、有効期間や使用者住所、所有者情報が記載されないため、ユーザーや関係事業者は、車検証閲覧アプリを活用して当該情報を確認することができます。  
アプリのインストール方法は  
準備でき次第特設サイトでご案内します

事業者の皆様へ  
記録等事務代行サービス  
電子車検証に搭載されているICタグの記録情報の書き換えのみの継続検査や変更記録手続きの場合、運輸支局等から委託を受けた記録等事務代行者は運輸支局等への出頭は不要となります。運輸支局長等から委託を受けた記録等事務代行による電子車検証の記録事項の書き換え及び検査履歴その他帳票の印刷を可能とする記録等事務代行サービスを新たに構築します。

電子車検証でここが変わる！  
OLD 紙  
NEW 電子  
AGサイズでコンパクト  
車検証情報はアプリで確認  
記録等事務代行サービスで一部手続きが出頭不要

国土交通省 電子車検証特設サイト  
<https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/>

国土交通省 電子車検証特設サイト  
<https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/>

※出典：国土交通省電子車検証特設サイト 車検証電子化告知リーフレット

# 2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 9月出荷状況と上期累計

# 07

## 【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 9月出荷状況と上期累計】

上段 9月出荷数 下段：上期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204
25	23	30	1	1	45	0	3
77	141	316	11	3	268	2	25

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A-C	合計
8	3	0	3	0	0	9	126
18	16	0	8	6	4	57	875

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

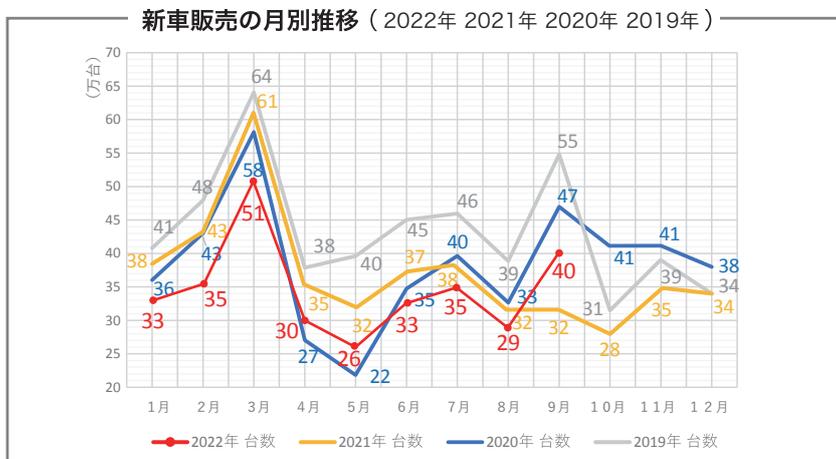
□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

# 9月新車販売・使用済自動車発生台数

～9月の使用済自動車発生台数 前年同月比24%増～

# 08

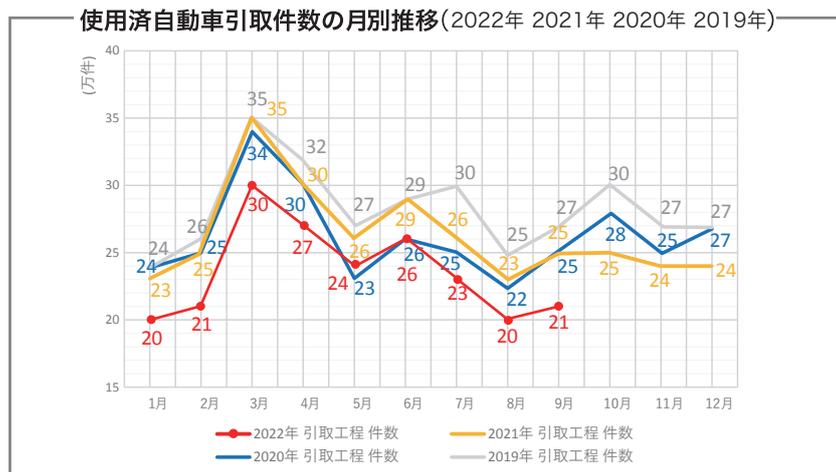
## ■2022年8月度 新車販売台数 395,163台 (前年同月比124.1%)



過去の新車販売台数推移		
年累計	台数	前年比(%)
2022年 (9月まで)	3,120,718	89.7
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

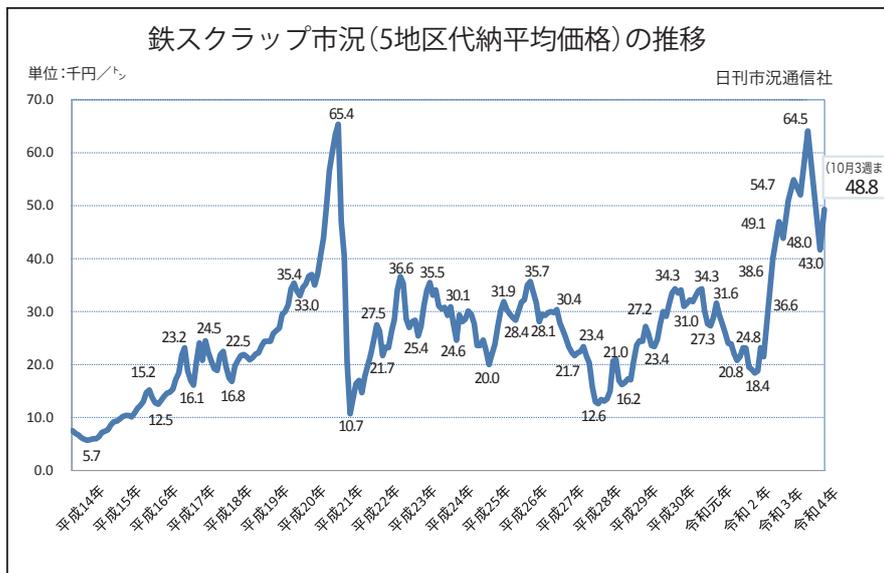
## ■2022年9月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数
212,182件 (前年同月比 84.1%)
フロン回収工程
189,136件 (前年同月比 84.2%)
解体工程
220,565件 (前年同月比 84.6%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 10月第4週(21日)の鉄スクラップ動向



## 10月21日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	49,500～50,500	小反発
	南関東	49,500～50,500	小反発
	浜値	49,000～50,000	小反発
名古屋		47,500～49,000	小反発
関西	大阪	50,500～51,500	小反発
	姫路	49,000～49,500	小反発

## トルコの輸入鉄スクラップ市場は様子見商状が継続

トルコの輸入鉄スクラップ市場は、10月10～12日を最後に新規成約が出ておらず、様子見商状が継続している。トルコ産の鋼材価格が下落していることに加え、エネルギーコストの高騰が重なり、トルコムルは減産を余儀なくされる状況にある。このため鉄スクラップについても新規成約に対し慎重な姿勢を続けている。

米国玉HMS1&2 (80:20) の中心値は、9月下旬から現在までCFR370ドル前後で推移している。しかし米国玉の成約は10月上旬にHMS1&2 (90:10) がCFR378ドル、シュレッダーとボーナス (HS) がいずれもCFR393ドルを付けたものなどを最後に、その後は新規成約が出ていない。このため足元の中心値CFR370ドル前後も気配値の意味合いが強く、トルコムルを取り巻く環境を考えると基調は弱含みにある。

欧州玉については、10月10～12日にMS1&2 (80:20) の成約が複数見られ、価格はCFR363～367ドルと、その時点での相場の範囲にある価格で決まった。

トルコ産の鉄筋価格は、国内向けは若干の値下がりにとどまっているが、輸出向けのオファー価格はFOB680～690ドルで、前週のFOB700～720ドルから20～30ドル値下がりした。それでもバイヤーはこの水準の価格を受け入れず、輸出の成約には至っていない。

## 【関東地区】 10月19日にかけて500～1,000円の値上げ広がり反発

関東の鉄スクラップ相場は10月下旬に入り反発した。値上げ幅は500～1,000円。20日からの値上げも含めて全体の半数強の9事業所が値上げ改定を実施した。市中スクラップの荷動きが分散したため東京製鉄が全拠点の値上げ改定を19日に発表すると、関東電炉の多くが即日対応し引き合いを強めたH2炉前実勢価格は49,500～50,500円中心。H2浜値は1トあたり49,000～49,500円中心、高値50,000円見当へと続伸した。

## 【東海地区】 10月21日までに地区電炉の500円上げが一巡

名古屋地区電炉の大同特殊鋼、愛知製鋼、中部鋼鉄、山口鋼業の4社は10月21日から鉄スクラップの購入価格を全品種一律500円値上げした。東京製鉄が全拠点で行った19日からの値上げ改定に対しては、全国的にもメーカーの足並みは揃っていない。域内でも即日追随はトピー工業と共英製鋼名古屋の2社に留まっていたが、21日までに地区内の主要電炉全社が追随した。H2炉前実勢価格は47,500～48,500円中心、高値49,000円見当。

## 【関西地区】 ヘビー中心にタイト感残り堅調様子見

大阪地区の鉄スクラップ市況は堅調様子見。実勢価格に幅が見られるため、市中からの出荷先にも変化を及ぼし電炉入荷にバラ付きが生じている。先行値上げ筋を中心に需要は高く、「中下級ヘビーの荷余り感が出てくる雰囲気もなく、価格対応を見合わせているメーカーを含め、引き合いを強めてくる可能性が残っている」(ヤード業者筋)という。H2炉前実勢価格は、大阪地区が50,500～51,500円中心。姫路地区が49,000～49,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月21日午後時点のもの)

## — 11月の主な行事予定 —

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■11月2日(火)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車リサイクル士新規講習会修了試験<br/>福岡会場</li> <li>※以下「自リ士修了試験」</li> </ul> </li> <li>■11月4日(金)~5日(土)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北ブロック交流会</li> </ul> </li> <li>■11月7日(月)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・第57回自動車リサイクル合同会議</li> </ul> </li> <li>■11月8日(火)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回広報部会 (WEB)</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■11月10日(木)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック解体作業見学会・意見交換会<br/>(兵庫県)</li> </ul> </li> <li>■11月11日(金)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自リ士修了試験 沖縄会場</li> </ul> </li> <li>■11月17日(木)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業)<br/>定例会 (WEB)</li> </ul> </li> <li>■11月18日(金)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿ブロック会議 (対面・WEB)</li> </ul> </li> </ul> |
|---|---|

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### 廃発炎筒回収に関する価格改定について

発炎筒製造メーカーである“日本カーリット株式会社”より“廃発炎筒回収に関する価格改定について”のご案内がございました。

現在、廃発炎筒については日本保安炎筒工業会の広域回収システムによって処分されておりますが、その「回収箱と集荷費用」について、原料価格の高騰や集荷費用の値上がりにより、それぞれ一律200円の値上げとなります。

【ご案内】 <https://www.elv.or.jp/media/20/20220928-20220920hatuentoukakakukaitei.pdf>

詳細は上記URLの案内文をご確認いただけたらと存じますが、原材料等の価格高騰及び集荷費用の値上がりによりやむを得ない値上げであるとのこととございますので、皆様何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

※同広域回収システムに参加している廃発炎筒製造メーカー“国際化工株式会社”も今後価格改定の可能性がございます。

## 編集後記

いま、日本自動車リサイクル機構は事業の円滑な運営、会員間の活発な交流、連携の推進等に加え機構運営の適切な管理が求められています。これらは全て私達解体業者の為であり、一社では成しえない行政への意見陳述や要望の提出、あるいは自動車メーカーとの情報交換や自動車解体業の地位向上の為の組織的活動等、数えればキリがないほどです。

また、私達自動車解体業者も日々お客様から寄せられる要請や課題に応えるために、会社運営の経験と専門知識を備えた人材が益々必要となっています。そのような人材育成をするにあたっては、個社での対応が難しいのが現実です。

機構では多くの事業の中でも特に、自動車解体業者における社員教育を目的に自動車リサイクル士の資格取得を推奨しています。これは、日本自動車リサイクル機構が独自に定める資格称号で、今はまだ民間資格ではありますが、肩書きとして使用することができます。

更に機構では自動車リサイクル士資格取得者の増強を真剣に取り組んでいます。全ては自動車解体業界の為にです。自動車解体業に携わっている皆さんには必要不可欠な資格と捉えていただき、会社の業務を執行する役員、実務を担う社員の方々全てに是非是非挑戦していただきたい資格です。そして、今号で登場しました佐々木部会長の熱い思いが読者の皆様に伝わることを切に願ってやみません。

(広報部会長 田村 幸男)